

## 平成 30 年度 中学 42 期生 中学 2 年東京・東大見学 便り

3 月 28 日 (木)

時間に遅れることなく、岡山駅や姫路駅に集合し、のぞみ 120 号で東京へ出発しました。新幹線の車内の様子を見ていると、周囲に気を配りながら過ごしていて、成長を感じることができました。途中、車窓からのぞく富士山を目にしたときには、その厳かで凜とした姿に感銘を受けていたように見えました。

東京駅に着くと、バスで東京大学本郷キャンパスまで移動し、西成活裕教授の「渋滞学」の特別講義を受けに行きました。西成教授の面白く分かりやすい解説により、生徒達も学問の一端に触れることができました。その中で、思考力を鍛えるための様々なアドバイスもいただき、熱心にメモを取って自分に活かそうとする姿が印象的でした。



講義終了後に、本校 OB・OG と共に、東京大学本郷キャンパス内を散策しました。充実した研究施設だけでなく、立派なスポーツ施設や生協なども見学でき、東京大学のもつ様々な顔を知ることができたようで、終始活気に溢れていました。

その後、水月ホテル欧外荘へ移動して夕食をとった後、本校 34 期の小松さんと坂口さん、39 期の鬼木さんと小林さん、40 期の佐々木さんと高卯(歩)さんと高卯(夏)さんから東京大学の魅力を語っていただきました。様々なアドバイスをいただき、良い刺激を受けたようで、その後の座談会も大いに盛り上がりました。



3月29日(金)

朝に鷗外荘を発ち、東京消防庁本所防災館の見学へと向かいました。ここでは、今後必ず発生すると言われていた大地震をはじめ、都市型水害や暴風雨など様々な災害の一部を体験できました。災害が少ないと言われる岡山県ですが、昨年の西日本豪雨など、いつその危機が迫ってくるのか分からないといった危機意識を持つと同時に、その際にどのように身を守れば良いかなどの具体的方法を主体的に学ぶことができました。



その後、首都高速を通過して来年行われる東京オリンピックに関する施設に目を向けながらお台場へ移動し、昼食をとった後、日本科学未来館の見学をしました。地球の未来に思いを馳せながら最先端技術を垣間見ることができました。「もっとここにいたい」と思う生徒が多く、最先端の科学技術が集結した未来館は生徒たちにとってかなり刺激的なものであることがひしひしと感じられました。



岡山に帰るために、名残惜しい気持ちを抑え東京駅に向かいました。東京駅でしばしお土産などを入手する際も、マナーを守ることができていましたし、集合もスムーズにできたため、ここでも生徒の成長を実感することができました。

帰りの新幹線では皆疲れていたようで、すっかり寝入ってしまった生徒がほとんどでした。その寝顔には、中学生らしいあどけなさや少し大人になれたたくましさがありました。行程中は、体調不良者もなく、全員無事に帰ることができました。